

## D 氏邸訪問記(2014.9.23)

### 1. 始めに

新居に理想的なオーディオルームを構築された D 氏邸には、5 月と先月伺い、響きの良い新オーディオルームで Jensen Imperial の大物ぶりを拝聴しました。

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/?p=2373>

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2014/01/a5b573eb504c065cb8e44b56f465608f.pdf>

今回は前回の時間不足もあったので A 氏に GPS-777 をご持参いただき、GPS クロックを入れた EMT981 でじっくり CD を聴かせていただくことと、拙宅の IPC AM1029 (写真) をお貸ししているのです、この IPC のアンプで Jensen Imperial がどう鳴っているか聴かせていただくことが目的です。今回は D 氏邸にはお馴染みの M 谷氏、A 氏の他、初めての Y 氏も同席されました。



### 2. D 氏邸での試聴の経過

AM1029 には、RCA の 6L6G、GEC の KT66、GE の 6L6GC、Golden Dragon の 350B をお付けしてお渡ししていたのですが、D 氏は RCA の 6L6G が良いとのことと、この球で聴いていきました。

A 氏と小生がクラシックファンということで、最初は D 氏の PC から USB-201 への送り出しで YouTube でフルトベングラー/ベルリンフィル、ヤルヴィ/パリ管、ヴァント/北ドイツ放送などの新旧の録画・録音を聴かせていただきましたが、YouTube とは思えない、またシングルアンプ駆動とは思えないバランスの良い音でした。

次にいろいろな音楽ジャンルの CD を聴かせていただきましたが、当方が持参したミュンシュ/ボストンの幻想やインフラノイズのマスタークオリティ盤 Unicla を EMT981 で聴かせていただきました。幻想はまさに Jensen Imperial 製造とほぼ同

時代的なアメリカの響きのよいボストンのホールを彷彿とさせる演奏で、最近のややもすれば分析的に過ぎるハイエンドと違って、良いホールの中ほどからやや後方の席で聴いている心地よい印象でした。Unicla もこの種の音楽には馴染みがありませんが、クラリネットとギターの質感を良く再現していました。

その他、Fazioli を使っているのではないかと思われるハービー・ハンコックその他の Jazz を聴かせていただいたりしましたが、これらも日本の一部のジャズ喫茶の浴びるような音の洪水とは違う、米国出張時に訪れたジャズスポットの雰囲気を出してくれていました。

### 3. 拙宅での micro iDSD の試聴経過

お昼のお弁当をいただいた後、D 氏の車でアンプを返却していただくついでに、micro iDSD 導入後の拙宅の近況も確認していただくことになりました。

最初に、元音源は違うものの、同じメーカーの 1 番で、BS 録画再生、EMT981 による CD 再生、Plextor Premium 2U での CD 再生を HQPlayer で DSD にリアルタイムする再生、オーディオ仲間からいただいた 256sDSD 音源の Native 再生を比較しながら聴いていただき、それぞれの特徴をお聴きいただきました。なお、micro iDSD の DAC 以降は共通です。

その後メモリーにあった、いろいろな音楽ジャンルの 92KHz,24bitWAV 音源を DSD に変換して聴いてみたり、Y 氏持参の Jazz の CD や DVD を鑑賞したりして、Y 氏ご持参の Jazz の CD を Plextor Premium 2U で再生しながら、HQPlayer で、① 44.1KHz,PCM の送り出し、②352.8 KHz,PCM の送り出し、③5.6MHz,DSD の送り出しで耳馴らしをした後、Jazz とクラシックのバロックの CD を使って、どれが好きか、また①、②、③はどれかの判断をもとめるブラインドテストを行ってみました。ハイレゾをやっていない D 氏は①を、ハイレゾを試みて種々おられる M 谷氏は②を採るなど経験の範囲が好みに影響していましたが、次に美空ひばりをかけてみますと D 氏、M 谷氏とも判断に苦しまれたようで、DSD にまだ納得されていない Y 氏が DSD を採るなど、それまでの①、②、③の判断が狂ってしまいました。

このように普段聴いている音楽ジャンル、経験の範囲、好みの判断基準、音量の設定、使用するオーディオシステムの特徴、元音源がそれなりにバランスを取ったマスタリングを行っているのを無理なフォーマット変換を行うとバランスを崩してしまうことなどが要因になって、ハイレゾ PCM であれ、DSD であれ、万人が首肯するところに行かないことが分かりました。

実際に拙宅でいろいろやっていると、一概に DSD でも良くはならないものがあり、音楽ジャンルや元音源の録音やマスタリング、フォーマット変換のプロセスが重要であることが分かってきております。被験者になってもらった諸氏にはお気の毒でしたが、見境なくハイレゾだ、DSD だと騒ぎ立てるオーディオジャーナリズムの風潮が

いいのかどうか、身を以て体験していただいたわけです。

この他、M 谷氏自作の USB ケーブルを繋いだり、ハリー・ベラフォンテのカーネギーホールのライブ録音 CD をリアルタイム DSD 変換で聴いたり、持ち寄った音源を交換したりと楽しい時間を過ごさせていただきました。

#### 4. 次の計画など

D 氏は EMT981 の他に、Studer の A725 をお持ちですし、拙宅には Philips の LHH1000 や Marantz の CD95 や EMT982 もあり、今回参加されなかった S 氏は Philips の LHH2000 と LHH1000 を、また K 氏は Studer の A727 もお持ちです。これらの Philips メカ機を一堂に集めて聴き比べをしたらどうかとか、A 氏が本日使用した micro iDSD をお持ち帰りになりましたので、A 氏宅では 256sDSD が本当にいいのかどうか、再びブラインドテストをやってみるとか、いろいろ話題にすべき種は尽きません。

以上

#### 【後記】

戻ってきた IPC AM1029 ですが、元の位置に収まり、LEAK Point1 とのコンビで EMI のモニタースピーカー DLS 529 を鳴らしています。DLS 529 は通称アビーロード・スタジオ・モニターと称され、ビートルズの収録に使われたとの俗説もありますが、本来は民生用であったとか、真偽のほどは定かではありません。しばらく、D 氏が選択された RCA の 6L6G のままで聴いていましたが、やはり弦の潤いがほしくなり GEC の KT66 に戻してしまいました。写真のように高域はコーンツイーターが受け持っていますので、パラに TAKE T の BAT1 を繋いでいましたが、村田製作所の ES-105 を追加してみましたところ、さらに倍音の微妙な表情が出てきました。

